



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

療養指導士としての新たな挑戦を応援します

当研究会評議員

武蔵村山病院 小柳 貴子 [看護師]

5月を迎え、当院でも、フレッシュな方たちの笑顔と緊張感をまとった姿を目にする機会が増え、その初らしい様子に先輩としての自覚と責任を改めて実感し、気持ちが引き締まる毎日です。

今年度は、私たち糖尿病療養に従事する者にとって大きな取り組み事項の中に次の二点があります。

まずは、2012年4月1日よりHbA1c値が国際標準化され、NGSP値(National Glycohemoglobin Standardization Program: 国際標準値)が採用となったことです。当院と同じく「JDS値」と「NGSP値」の2項目を併記する施設は多いと思いますが、それによって患者さんが混乱することが予想されます。患者さん向けにわかりやすく表記しているパンフレットやポスターを掲示し、診察時には一人ひとりの患者さんに説明をしておりますが、一度の説明で十分に理解を示していただけるとは難しいようです。そのため説明や資料を配布するだけでなく、糖尿病手帳への記載についてもマークをつけ、この時点からNGSP値であるとわかるように工夫をするなど患者さんが自宅で糖尿病手帳を見返した時にも変更がわかるようにする必要もあります。当院では、テプラシールを用いて、手帳にマーキングをさせていただいております。患者さんの反応を窺いながら、患者さん一人ひとりが自分の治療計画、療養行動の評価に役立てられるように個別の療養支援で繰り返し関わっていくことが不可欠となります。

もう一つの取り組み事項とは、4月からの診療報酬改定をうけ「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料：150点」「糖尿病透析予防指導管理料：350点」など、糖尿病診療場面において適切な療養指導を提供することに診療報酬が追加されたことです。その算定要件として、それぞれに基準が設けられていますが、キーとなるのが糖尿病療養指導に従事している私たちの実践・評価です。医師の指示のもと、チームとして専門的な介入が患者さんの治療成績に良い効果をもたらすと公に認められたのだと考えます。療養指導士の活動実績を含め糖尿病療養に従事している先輩方の功績があつての診療報酬改定だと思います。従って、診療報酬を算定するために、形式的に患者さんに介入するというのでは意味がありません。150点または350点を頂くだけの価値のある療養指導を実施できるように、さらに個々の実践能力を高めていくことが必要となります。私たちの施設でも、チームの再編成を検討しています。幸いなことにチームメンバーに恵まれ、向上心があり協力的でかつ患者さんに対する熱い思いを持っている集団(笑)ですので、これからの活動を考えると楽しみでなりません。

このような取り組みからも、今年度は私たち療養指導士にとってさらに活躍の場が広がっていくことが示唆されます。本研究会においてもさまざまな研修を企画準備し、自己研鑽できる機会を提案、支援していくことをすすめてまいります。これまで以上に地域の交流を深め、新しいことに前向きに取り組める私たちでありますように、そして、共に楽しく挑戦し続けていける仲間であることを願ひ頑張ってください。



西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に50単位を取得する必要があります。当研究会会員は、会報「Mano a Mano」の問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できるようになりました。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導に役立ててください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

『問題』 2型糖尿病について、下記の組み合わせより誤ったのを選んで下さい。

- (1) 我が国の糖尿病患者の90%以上を占める。
- (2) 病態としてインスリン分泌不全とインスリン抵抗性が重要である。
- (3) ケトアシドーシスを起こしやすい。
- (4) 1型糖尿病に比べて遺伝傾向は弱い。
- (5) 発症に過食や運動不足などの環境因子が関与する。



回答群

a (1) (2) b (1) (5) c (2) (3) d (3) (4) e (4) (5)

(答えは3ページ、解説は6ページにあります。)

研究会等の実施報告



第23回 武蔵野糖尿病研究会

平成24年2月25日（土）三鷹産業プラザにて実施されました。

23回目を迎えた武蔵野糖尿病研究会は医師・薬剤師・看護師・栄養士・検査技師の先生方を中心に32名お集まりいただき、今回は「糖尿病治療の課題と展望」をテーマに東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 准教授 植木浩二郎先生にご講演いただきました。質疑応答の際にも薬剤の使い方等具体的症例提示をされてお話しいただき、大変盛況でございました。

一般演題の部では、武蔵野赤十字病院 循環器科 宮本貴庸先生に症例報告をしていただきました。

お帰り際にはご参加いただいた皆様から次回テーマのアンケートを実施いたしまして、大変ご参考になるご意見をいただくことができました。

次回開催は本年の冬頃を予定しております。引き続き宜しくお願ひ申し上げます。



第2回 薬剤師糖尿病指導研究会

平成24年3月10日（土）国立商業協同組合さくらホールにて開催されました。

当研究会会員 くにたちウラン薬局 森 貴幸



第2回薬剤師糖尿病指導研究会が、3月10日（土）に国立市さくらホールにて開催されました。参加者は66名で、内薬剤師61名でした。

一般演題は三鷹駅前調剤薬局の薬剤師 福田隆明先生が「マンネリ化した服薬指導の実例」という演題で話題提供されました。不要なマンネリ化を避けるために、薬剤師が知識や技術を身に付けることは必須であり、患者に合わせたオーダーメイドを目指す必要があると感じました。

特別講演は朝比奈クリニック 院長の朝比奈崇介先生が「糖尿病療養指導に必要な心理学的知識」という演題で講演されました。薬剤師はいつでも相談できるアドバイザーとして責任を引き受ける必要があり、一番大事なことは患者さんが幸せな人生を送るように手助けすることとお話しされました。これは私たちが療養指導する上で考えていく必要不可欠なことであると感じました。

次に総合討論として「マンネリ化した服薬指導を打開しよう」という題で参加者から意見を募り、今困っていることやどのように服薬指導しているのかを出し合いました。

今回の内容は私自身今まできちんと考えながら投薬してこなかった部分でもありました。本会にて、必要とされる患者への心理的アプローチを学べました。朝比奈先生、福田先生、参加された先生方からの話で、より切実に患者の立場にたつ療養指導が重要であることを確認でき今後の服薬指導に役立つ研究会でした。



研究会等の実施報告



第31回食事療法学会・ランチョンセミナー

平成24年3月11日（日）豊島区池袋 帝京平成大学（沖永記念ホール）にて開催されました。



研修会の実施報告

当研究会理事 緑風荘病院 西村 一弘

平成24年3月10日（土）、11日（日）東京都豊島区池袋にある帝京平成大学（沖永記念ホール）にて、第31回食事療法学会が開催されました。食事療法学会は元来、（社）日本栄養士会全国病院栄養士協議会の全国研修会という位置付けで行われる、栄養士・管理栄養士を中心とした研修会であります。また、第31回は宮城県仙台市での開催予定でしたが、昨年の東日本大震災の影響で、宮城県では準備が困難ということになり、急遽、東京池袋で開催することに決定いたしました。私が実行委員長、当研究会の原純也評議員が副実行委員長として任命され、学会の運営を行うことになりました。

本会では、初の試みではありましたが、（株）三和化学研究所のご支援をいただきながら、2日目に4F講義室にてランチョンセミナーを開催することになりました。『地域連携における管理栄養士の役割－西東京地域の活動事例－』というテーマで、北海道栄養士会病院栄養士協議会会長の札幌社会保険病院 栄養科長 中川幸恵先生に座長をお願いして、私がNPO法人西東京臨床糖尿病研究会における栄養士・管理栄養士の活動事例を紹介させていただきました。200名以上の参加者があり、皆様に西東京地域の活動について、興味を持っていただくことができました。

初日では、200名以上の参加者があり、皆様に西東京地域の活動について、興味を持っていただくことができました。



研修会のご感想

当研究会会員 緑風荘病院 藤原 恵子

第31回食事療法学会は、日本栄養士会全国病院栄養士協議会の主催で2日間に亘り開催されましたが、当院の西村一弘先生が学会の実行委員長を任されていたこともあり、酒井院長共々学会に参加しました。

2日目に、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会主催のランチョンセミナーがあり、当研究会の理事でもある西村一弘先生が「地域連携における管理栄養士の役割－西東京地域の活動事例－」について講演されました。私も当研究会の創設期から研究会などに参加させていただいておりますが、西東京臨床糖尿病研究会の歴史的なことも含めて、西東京地域での管理栄養士の活動が紹介され、私にとっては非常に感慨深い講演でありました。講演の後には、座長の札幌社会保険総合病院の中川幸恵先生の司会により、会場の方からの熱心な質問に答えていただきました。質問の内容は、西東京地域での管理栄養士の紹介事業の内容等に関する事から、緑風荘病院での保健指導や訪問栄養食指導など、実践に関する内容でした。NPO法人西東京臨床糖尿病研究会の活動について、今回初めて知ったという方々も多くおられ、「早速できることから始めてみたい。」という感想も聞かれました。

西村先生から「幅広く活動するには管理栄養士のマンパワーが必要だが、結果を施設長に示すことが人員確保にとって大切である。」といったお話もありました。私達の活動が、糖尿病の予防や治療に繋がるように、今後も継続しなくてはならないと再確認できた、ランチョンセミナーでした。

西村先生から「幅広く活動するには管理栄養士のマンパワーが必要だが、結果を施設長に示すことが人員確保にとって大切である。」といったお話もありました。私達の活動が、糖尿病の予防や治療に繋がるように、今後も継続しなくてはならないと再確認できた、ランチョンセミナーでした。



『答え』

d (3) (4)

（6ページの解説をよく読みましょう。問題は1ページです。）

研究会等の実施報告



第12回 TAMA生活習慣病フォーラム

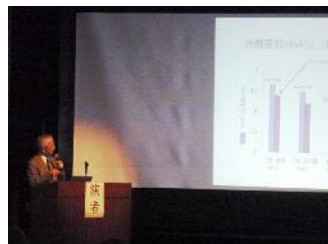
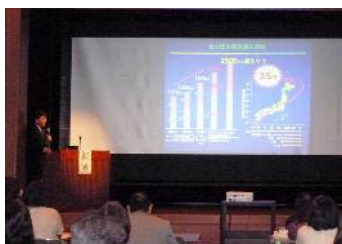
平成24年3月17日（土）調布市文化会館たづくりにて開催されました。

当研究会評議員 かたやま内科クリニック 片山 隆司

平成24年3月17日（土）に調布市文化会館 たづくりにて、第12回TAMA生活習慣病フォーラムが開催されました。テーマは「2型糖尿病の薬物治療の総まとめ ～最新早分かりマニュアル～」。

第Ⅰ部では富永先生より、経口薬治療中であるがコントロール不良の症例を提示していただき、今後の治療方針の選択肢を事前に配布しました選択ボードで参加者より回答をいただきました。第Ⅱ部では片山が、糖尿病経口薬について総括しました。近年、DPP-4阻害薬や合剤が発売されたこともあり、その煩雑さから医療現場も混乱しつつあるため、実地医家・専門医の立場から各製剤の特徴や使い分けを解説しました。第Ⅲ部では戸塚先生より注射薬としての長い歴史のあるインスリン療法を、同じ注射療法ながら薬効も副作用もことなるインクレチン注射薬と比較しながら分かりやすく解説していただきました。第Ⅱ部、第Ⅲ部の基調講演終了後に再度、第Ⅰ部の症例の答え合わせも兼ね、参加者が考える症例の今後の治療方針を再度選択ボードにてご回答いただきました。

終了後のアンケートにおいて、100%の方が業務に役立つ、98%の方が次回参加希望するとの回答をいただき、多くの反響を得ることができました。



第29回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室

第18回 西東京糖尿病患者会連合特別講演会

平成24年3月17日（土）調布市文化会館たづくりにて開催されました。



平成24年3月17日（土）13:15より武蔵野スイングホールにおきまして「第29回東糖協多摩ブロック糖尿病教室・第18回西東京糖尿病患者会連合特別講演会」が76名の参加者を集めて開催されました。

相談コーナーでは、看護師、管理栄養士からの日常生活のお悩みにお答え頂きました。続いての講演「糖尿病と歯周病」では武蔵野赤十字病院 内分泌代謝内科 副部長 藤田進彦先生を座長に多摩北部医療センター糖尿病療養指導チームの内分泌代謝内科 医長 藤田寛子先生、歯科口腔外科 医長 潮田高志先生、歯科衛生士 水落雪乃先生より歯周病ケアの大切さ、正しいブラッシングについてわかりやすく解説して頂きました。次に「ぜひ聞きたい! あんな疑問? こんな疑問?」コーナーでは、武蔵野赤十字病院 藤田進彦先生の司会のもと、多摩北部医療センター 藤田先生、潮田先生、水落先生、糖尿病認定看護師 福井美智代先生、公立昭和病院 管理栄養士 大坪先生をコメンテーターに会場からの糖尿病に関する疑問質問にお答えいただきました。最後に特別講演会「糖尿病性腎症の最新情報・腎症は良くなる?」では公立昭和病院 内分泌・代謝内科 部長 貴田岡正史先生を座長に旭川医科大学 内科学講座病代謝内科学 教授 羽田勝計先生より最新の腎症治療について詳しく解説頂きました。

研究会等の実施報告



南多摩圏域糖尿病医療連携検討会・第2回 糖尿病スキルアップセミナー

平成24年3月20日（祝）八王子クリエイトホールにて開催されました。



研修会の実施報告

当研究会理事 東京都立多摩総合医療センター 西田 賢司

去る2012年3月20日、春分の日、八王子の小平市健康センターにて、第2回南多摩スキルアップセミナーが開催されました。これは、南多摩かかりつけ医講習会の一部として行われたもので、主に医師向けの当セミナー以外には歯科医師向けセミナー、薬剤師向けセミナー、慢性腎臓病についてのセミナーが同日・同会場にて時間などを変えて行われました。

昨年のセミナーも同じ会場であったこともあり東日本大震災直後のただならぬ雰囲気の中での開催であったことをあらためて思い出しましたが、今回はそのような混乱はなく、スムーズに開催できました。

参加者は医師25名、歯科医師22名と今回もますますで、その中で医師向けからは19名の方にアンケートに回答いただきました。内容、時間、講義内容、資料などについて、おおむね3分の2から4分の3の方には満足いただけただようで、ほっとしております。以前他の地域でやや意見の出た開催日・開催時間についても、今回は休日の午後開催であったことからか、問題ないという方々が多かったように思われます。

今年度は、今までの講義形式を変えて、症例検討などの企画も考えているところですが、一方で新しい薬剤が次々に開発・発売されるなど、やはり新しい情報をお伝えするには講義形式も残さざるを得ないかと思われ、まだまだ試行錯誤が続きます。今後とも会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



研修会のご感想

当研究会評議員 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美

「南多摩医療圏域スキルアップセミナー」は2回目を迎えた。今回は医師・歯科医師のみならず薬剤師の参加も得た。目玉のCKDの講演会・ディスカッションについては残念ながら感想を書くことが出来ない。しかし同時開催の薬剤師部門学習会は40名ほど集い盛況だった。医師、病院、薬局薬剤師からのプレゼンテーションの後、パネラーを前に質疑応答が進められた。

「食べることしか楽しみがないんだから」と言われたり、初診時に見せられた「壊疽」のインパクトが強くて血糖は良くなったがやせてしまった患者さんなど、服薬指導の窓口のナマの悩みが寄せられていた。シックデイの対応も、話してないわけではないのだが、患者さんは緊急時にその地域を活用できるとは限らない。高齢虚弱者、夏の脱水に陥りやすい時期（あるいは感染流行期？）など、ハイリスクを見極める「ハナをきかせた」個別的な対応が必要などと話された。

ある医療機関のひとつまたは数か所の薬局の連携はあっても、医師と顔が見えないと敷居が高い薬局もある。薬局同士の連携（パイプの太い薬局の役割分担とか、地域で連携用紙を作るなど）に関し、積極的意見が出されていた。今後も多く地域の医療者が集い、ディスカッションできる有意義な会が望まれる。



医師向けセミナー



薬剤師向けセミナー



歯科医師向けセミナー

研究会等の実施報告



第29回 糖尿病治療多摩懇話会

平成24年3月21日（水）立川パレスホテルにて開催されました。



3月21日に「第29回糖尿病治療多摩懇話会」をパレスホテル立川にて開催いたしました。本会は、アンケート結果発表、症例発表、特別講演の3部構成となっており今回のテーマは、「糖尿病と神経障害」です。

近年、糖尿病性神経障害に対しての新規薬剤が複数登場し治療が大きく変化をしています。このような状況から恒例のアンケートは大変注目された内容となっていました。調査内容を、青梅市立病院 代謝内分泌内科 部長 関口芳弘先生よりご発表いただきました。今回は106名の多くの先生方にアンケート聴取をご協力いただくことができ、充実したアンケート結果となっていました。この発表の中で近年登場した画期的な新薬などが糖尿病の神経障害の治療を大きく変えている様子が発表されました。

症例発表は、東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 白井崇裕先生より「重篤な糖尿病性胃麻痺の治療が困難だった1例」とのテーマにて貴重な症例に対する治療経緯のご発表をいただきました。本症例に対し患者さんに対するインフォームドコンセントの実際や困難だった診断のポイント、治療に難渋したいきさつ等の発表後、活発な質疑応答がございました。

特別講演は、社会医療法人社団健生会 立川相互病院 内分泌・代謝科 副科長 宮城調司先生から「糖尿病性神経障害」につきましてご講演をいただきました。糖尿病に特有の合併症の1つで、網膜症、腎症と共に糖尿病の3大合併症であり、3大合併症の中でも、糖尿病発症から最も早期に現れる頻度の高い合併症であり、痛みや温かさ、冷たさ、触覚などを伝える感覚神経や内臓や内分泌器官などの働きを調節する自律神経が傷つき、さまざまな症状を呈するとの指摘がございました。診断や治療などを最新のエビデンスを交えて詳細にご講演を頂き早期介入の大切さを訴えられていました。

最後に代表世話人の東京医科大学 第三内科 教授 植木彬夫先生より閉会の挨拶をいただき大盛況のなか本会を終了いたしました。

◆◆連載コラム ～テーマ「更年期」～（全3回）◆◆



『今は産む性？ 第2回 産まない性？』



～ターニングポイント～

当研究会会員 畑中医院 畑中 恭子

卵巣機能が衰え、閉経した女性の女性ホルモン量が男性の持つ女性ホルモン量の1/10以下だという事ご存知でしたか？私自身がこの事を知ったのは、自分が更年期世代になって体調の変化を感じた時で、性ホルモ的に考えると第3の性にでも成るのかとショックにも近い驚きを覚えたものです。自分の心身の変化への対処の仕方をあたふたと学習し、外来に来る女性に対する対応が変わって行きま

した。それまでの女性の患者さん御免なさい。

日本人女性の平均寿命は86.39歳。65年前（1947年）は53.96歳。卵巣機能を失う平均閉経年齢は今も当時も左程変わらず現在50.5歳だから、私達女性は産まない性をおよそ35年程生きることになる計算です。（因みに自然界の動物は大概産む性を終えるとその生を終えるのですが。）

一方で日本人男性の平均寿命は79.64歳なので、高齢化社会、じゃない超高齢化社会とは正に超女性化社会になると言うこと。

猛スピードで進む超高齢化社会を前に、女性のホルモン環境がごろりと変わる更年期世代は、その後の健やかな老年期を過ごせるかどうかの大事なターニングポイントに有ると思うのですが、そこにどう関わるのか、かつての私を含め、此の様な視点で女性患者に関わる医療の場は未だ未だ少ないのではないのでしょうか。



ターニングポイント

『解説』 下記の解説をよく読みましょう。（問題は1ページ、答えは3ページにあります。）



(3) ケトアシドーシスは急激なインスリン依存状態に対応出来るインスリン量が不足すると生じます。したがってインスリン残量の少ない1型糖尿病の方がケトアシドーシスを生じ易いのですが、糖尿病の患者数は圧倒的に2型糖尿病が多いため、2型糖尿病のケトアシドーシス患者に遭遇することも多いです。

(4) 2型糖尿病は糖尿病体質という遺伝的素因に、肥満、運動不足、食事摂取の誤りなどの誘因が存在することで発症します。両親が2型糖尿病だと子どもが2型になるリスクは12%、母親あるいは父親が2型糖尿病だと子どもが2型になるリスクは4~7%です。また、一卵性双生児の2型糖尿病発症率は80~90%以上とされています。

研究会他のお知らせ

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 平成24年度定例総会・第51回例会

テーマ：「糖尿病治療のPros & Cons」

(※お申込みは不要です。)

開催日：平成24年6月9日(土)

※詳細は同封の資料をご覧ください。

総会 13:20~13:50

例会 14:00~17:30

場 所：府中グリーンプラザ 2階 けやきホール(京王線「府中駅」下車・北口徒歩1分)

参加費：会員無料(非会員：1,000円)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

★日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

□ 糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修会] 第19回 東京会場

開催日：平成24年6月10日(日) 9:45~16:00

(※お申込みが必要です。)

場 所：独立行政法人 国立国際医療研究センター外來棟5階 大会議室(新宿区戸山1-21-1)

参加費：1,000円(テキスト代を含む)

申込み：糖尿病ネットワークのHPよりオンラインでお申込みください。(締切：6月7日(木))

http://www.dm-net.co.jp/event/2012ima/2012_03_ncgm.html

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

★日本糖尿病学会専門医更新単位：2単位

◆ 平成23年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

(※お申込みが必要です。)

開催日：平成23年7月8日(日)(開場：9:30)

※詳細は同封の資料をご覧ください。

場 所：北里大学・薬学部[白金キャンパス](JR山手線「恵比寿駅」徒歩20分)

(「恵比寿駅」より、都バス「田87」系統 田町駅行7分 北里研究所前下車)

参加費：6,000円(昼食代含まず)

申込み：下記どちらかの方法でお申込みください。(締切：6月30日(土))

①同封のお申込み用紙にて、FAXか郵送でお申込み

FAX：042-322-7478(宛先：当研究会事務局)

②当会ホームページの参加申込みフォームよりお申込み

※受付次第、参加費の払込票をお送りいたしますので、期限までにお振込みください。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位

※なお、<第1群>単位に関しましては各分科会詳細をご覧ください。

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群><第2群>どちらか一方のみ認められます。

各分科会詳細：

<教育看護系>第9回 西東京糖尿病教育看護研修会(10:00~17:25)

場所詳細：北里大学・薬学部(白金キャンパス)コンベンションホール

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群看護職>：4単位

<病態栄養系>第9回 西東京病態栄養研修会(10:00~17:25)

場所詳細：北里大学・薬学部(白金キャンパス)1号館1202講義室

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位

★病態栄養専門医認定更新のための研修単位：2点

<薬 剤 系>第9回 西東京薬剤研修会(9:50~17:35)

場所詳細：北里大学・薬学部(白金キャンパス)1号館1501講義室

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位

《糖尿病療養担当者のためのセミナー世話人募集のお知らせ》

※詳細は同封の資料をご覧ください。

東京多摩地域におきましては、毎年糖尿病療養担当者対象のセミナーを開催しております。世話人となって会を盛り上げていただける方を募集しています。[次回世話人会：5月28日(月) 18:45~21:00 立川商工会議所にて開催]

研究会他のお知らせ

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 第11回 西東京CDE研究会総会 (※お申込みが必要です) ※詳細は同封の資料をご覧ください。

テーマ：「糖尿病腎症を進行させない療養指導－透析予防のための糖尿病チーム加算－」
 開催日：平成24年7月14日(土) 15:30~18:55 (開場15:00)
 場所：府中グリーンプラザ 2階 けやきホール (京王線「府中駅」下車・北口徒歩1分)
 参加費：1,500円
 申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXか郵送でお申込みください。(締切：6月28日(木))

FAX：042-322-7478 (宛先：当研究会事務局)

※受付次第、参加費の払込票をお送りいたしますので、期限までにお振込みください。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

教えて！糖尿病Q&A



質問者：匿名[看護師]

DPP-4阻害薬が多数発売されていますが、糖尿病薬の中で、一緒に使って良い薬とだめな薬があるのは、なぜですか？



回答者：杏林大学医学部付属病院 小林 庸子 [薬剤師]

ご指摘の内容を表にまとめました。○は併用しても良い組み合わせ、×は併用してはいけない組合せです。

		シタグリプチン		ビルダグリプチン	アログリプチン	リナグリプチン
		グラクティブ	ジャヌビア	エクア	ネシーナ	トラゼンタ
単剤		○	○	○	○	○
SU薬	アマリール オイグルコン ダオニール グリミクロン など	○	○	○	○	×
グリニド系	ファステック スターシス グルファスト など	×	×	×	×	×
ピグアナイド系	メトグルコ メルピン グリコラン メデット など	○	○	×	○	×
チアゾリジン系	アクトス	○	○	×	○	×
αグルコシダーゼ阻害薬	ベイスン グルコバイ セイブル など	○	○	×	○	×
インスリン製剤		○	○	×	×	×

通常、新薬が発売されるまでには、このような経緯を辿ります。

化学合成や、植物、土壌中の菌、海洋生物などから発見された物質の中から、試験管の中での実験や動物実験により、病気に効果があり、人に使用しても安全と予測されるものが「くすりの候補」として選ばれます。この「くすりの候補」の開発の最終段階では、健康な人や患者さんの協力によって、人での効果と安全性を調べることが必要です。こうして得られた成績を国が審査して、病気の治療に必要な、かつ安全に使っていただけると承認されたものが「くすり」となります。人における試験を一般に「臨床試験」といいますが「くすりの候補」を用いて国の承認を得るための成績を集める臨床試験は、特に「治験」と呼ばれています。(「治験とは」厚生労働省ホームページより)

治験では、用法・用量や適応症のほかに、併用薬の確認も行います。表中の×は、製薬会社が併用に関する試験を実施していない、または未だ承認されていないということです。今後、製薬会社が追加承認を申請することで、併用可能な範囲が増える可能性があります。薬理作用などが関与していると思われた方もいらっしゃると思いますが、「保険適応」が関与している事がご理解いただけたのではないかと思います。



《広報委員会より》 Q & Aの質問をお寄せ下さい。委員もしくは専門分野の先生に答えてもらいます。
 宛先 (Q & A 受付専用) : qanda@lagoon.ocn.ne.jp お名前 (匿名可)、職種をお書き添えください。

《発行元》

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL: 042(322)7468 FAX: 042(322)7478
<http://www.nishitokyo-dm.net>
 Email: w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

《編集後記》



本号も豊富な内容になりました。Q & Aに加え、先月から始まった会員による連載コラムは女性について興味ある内容が連載されています。また療養指導士の自己学習のための問題もすっかりチャレンジして下さい。この号が届け頃には、今年の糖尿病学会に発表される方は、大わらわの時期かと思えます。第55回糖尿病学会は5月17日、パシフィコ横浜で行われます。興味ある、有用なセミナー、ディベートも目白押しです。是非参加しませんか。(広報委員 植木 彬夫)